

このプリントは、全国や大阪府の学力・学習状況調査などで、小学生のみなさんが苦手としている問題を集めたものです。挑戦して、あなたのこれからの学習に役立ててください。

H19 全国 A問題

次の文章は、ある物語の一部です。この物語の中で、主人公のローワンは自分たちの住んでいるリンの村を救う者として選ばれました。ローワンは、村人が自分をどのように見ていると感じていますか。もっともふさわしいものをあとの1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましよう。

ローワンは、恐怖と孤独と恥ずかしさをどれも同じぐらいひしひしと感じていた。もう耐えられなかった。村人たちが痛ましげな目で自分を見ることに、耐えられなかった。だれもが、「なぜこの子なんだ？ リンの中でいちばんいくじのない子なのに」と思っているにちがいない。それなのに、運悪く村を救う者として選ばれてしまうなんて！みんなを失望させるしかできないのに！

(エミリー・ロッダ さくまゆみこ訳 『ローワンと魔法の地図』あすなる書房 による)

- 1 村人は、ぼくが一人できびしく生きていくことに耐えられないだろうと見ている。
- 2 村人は、村でいちばんいくじのないぼくが選ばれたことをかわいそうだと見ている。
- 3 村人は、ぼくが困っている村人を思いやることができる強い心を持っていると見ている。
- 4 村人は、ぼくが村の子なのだから村を救うものとして選ばれるのは当然だと見ている。

次は、『たったひとりの伝説』という物語のはじめで、「おじいちゃん」に届いた外国語の手紙を見せられた「ぼく」について書かれた場面の一部です。

ア・イ・ウの中に入る人物を、本文中の言葉を使ってそれぞれ書きましよう。

「読まなくても、見るだけでいい」

おじいちゃんに言われ、ぼくは三枚の紙をひととおり見た。そして、

「やっぱり何が書いてあるか、わかんないよ」と言つて、すぐに紙をおじいちゃんに返した。

もしもそのとき、部屋に母さんがいたら、とんでもないことになっていただろう。アはこれくらいのことでも、顔を真っ

青にしてイにあやまるか、さもなければ真っ赤になって、こんなふうに言つてウをしかる。

「なんですか、その態度は。おじいさまに『やはり、分かりません』と言いなさい！」

でも、母さんはそこにはいなかった。(齊藤 洋『たったひとりの伝説』による。)

H22 全国 A問題

ア

イ

ウ

次は、お菓子をつくっている美奈を主人公にして書かれた物語の一部です。文章の表現のくふうについて説明したものととして、もっともふさわしいものをあとの1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましよう。

美奈は悲鳴をあげた。スポンジケーキが焼きあがるはずだったのに、オーブンからでてきたものは真っ黒な炭だったからだ。美奈は、このごろ日曜日にはお菓子づくりに専念している。先週はクッキーを焼いた。できあがったものは、みょうに歯にくっつくクチャクチャしたガムのようなものだった。そのまえの週は、ドーナツをあげた。おいしそうなきつね色にあがったのに、中は空洞だった。そのまえはプリンをつくった。ポソポソとしたスポンジみたいだった。それもこれも、今年のクリスマスには、友だち同士で手作りのお菓子をもちよつて、パーティーをすることになったからだ。まったくだれがいいだしたんだろう。わたしではなかった。美奈は、ため息をついた。

(柏葉幸子『大ばあさんの不思議なレシピ』による。)

【表現の工夫】

- 1 美奈と友だちとの関係が分かるように、それぞれの性格や考え方を書いている。
- 2 美奈が体験したことを、ほかの登場人物に対して語りかけるように書いている。
- 3 美奈が取り組んだお菓子づくりのことを、つくった順序のとおりに書いている。
- 4 美奈がお菓子をつくるたびに失敗してしまう様子を、たとえを使って書いている。

物語に登場する人物についての描写や心情、人物相互の関係をとらえること

文章の内容の全体を把握すること

H22 全国 A問題

